法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-22

屋嘉宗彦教授 略歴・業績一覧

(出版者 / Publisher)
法学志林協会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法学志林 / 法学志林
(巻 / Volume)
114
(号 / Number)
4
(開始ページ / Start Page)
3
(終了ページ / End Page)
8
(発行年 / Year)
2017-03-22

屋嘉宗彦教授　略歴・業績一覧

［主な職歴］

一九四六年一月二四日　生まれ
一九六四年三月　琉球政府立　那覇高等学校　卒業
一九六八年三月　香川大学経済学部　卒業
一九六八年四月　家業に従事
一九七〇年四月　一橋大学大学院修士課程入学（理論経済学・経済政策専攻）
一九七二年四月　一橋大学大学院博士課程入学（理論経済学・経済政策専攻）
一九七五年三月　同大学院博士課程単位修得
一九七六年四月　法政大学第一教養部専任講師就任
一九七八年四月　同大学第一教養部助教授就任
一九八二年四月　同大学第一教養部教授就任
二〇〇三年四月　同大学法学部教授
二〇〇六年四月　同大学大学院国際日本学インスティテュート兼担
二〇一六年三月　同大学退職

［非常勤講師等］

一九七八年から二〇一四年度まで、明治大学、中央大学、慶応大学、学習院大学、埼玉大学、横浜国立大学、一橋大学等で二〜三年単位で非常勤講師を務める。もっとも長期に渡ったのは一橋大学である。

［法政大学での主な役職等］

通信教育部部長　二〇〇七年四月―二〇一二年三月
法政大学評議員　二〇〇七年四月―二〇一二年三月
法政大学沖縄文化研究所所長　二〇〇八年四月―二〇一五年三月
法政大学沖縄文化研究所副所長　二〇一五年四月―二〇一六年三月

［学会での役職］

経済理論学会　幹事・機関誌「季刊経済理論」編集委員　二〇〇四年四月〜二〇〇八年三月
経済理論学会　幹事・「季刊経済理論」編集委員長　二〇〇八年四月〜二〇〇九年三月

［海外研修］

ロンドン大学歴史学研究所　一九八三年四月～一〇月

レスター大学　二〇〇四年四月～二〇〇五年九月

［主な研究業績］

単　著

『マルクス経済学と近代経済学』青木書店、一九八七年
『現代資本主義の経済理論』青木書店、一九九〇年
『改訂増補　マルクス経済学と近代経済学』青木書店、二〇〇三年
『経済学』（法政大学通信教育テキスト）、二〇〇九年
『経済学』（増補改訂　法政大学通信教育テキスト）、二〇一四年
『沖縄自立の経済学』七ツ森書房、二〇一六年三月

共　著

『現代の経済学　上』青木書店、関恒義編、一九七八年
『現代の経済学　下』青木書店、関恒義編、一九七九年
『経済原論講義』有斐閣、松石勝彦編、一九八二年
『レジャーと現代社会』法政大学出版局、安江・村串編、一九九九年三月
『講座　資本論体系一〇　現代資本主義』有斐閣、北原・本間・鶴田編、二〇〇一年
『戦後七〇年の日本資本主義』新日本出版、二〇一六年六月

論　文

「国家独占資本主義の発生根拠とその本質的機能―大内力氏の国独資論の検討―」、一橋大学『一橋論叢』第七〇巻二号、一九七三年八月
「生産価格と独占価格」、一橋大学『一橋論叢』第七一巻五号、一九七四年五月
「独占の資本蓄積と景気循環の変容」、一橋大学『一橋論叢』第七五巻二号、一九七六年二月
「独占と競争」、法政大学教養部『紀要』、一九七六年七月
「独占と資本蓄積」、法政大学教養部『紀要』第二五号、一九七七年七月
「池上惇氏の国家独占資本主義論の一検討」、一橋大学『一橋論叢』第八〇巻四号、一九七八年一〇月
「池上惇氏の国家独占資本主義論の一検討―承前―」、法政大学教養部『紀要』第三四号、一九八〇年二月
「スタグフレーションと労働者の地位」、一橋大学『一橋論叢』第八六巻五号、一九八一年一一月
「沖縄におけるリゾート開発（その一）」、法政大学教養部『紀要』第八七号、一九九三年二月
「沖縄におけるリゾート開発（その二）」、法政大学教養部『紀要』第九四号、一九九五年二月
「沖縄におけるリゾート開発（その三）」、法政大学教養部『紀要』第一〇八号、一九九九年二月
「アダム・スミスの自由貿易論」、法政大学教養部『紀要』第一一七～一一八号、二〇〇一年三月
「F・リストのアダム・スミス批判―自由貿易論をめぐって―」法政大学教養部『紀要』、二〇〇二年二月
「比較生産費原理についての大石雄爾氏の見解を検討する」、政治経済研究所、『政経研究』第八一号、二〇〇三年
「スミスの『資本投下の自然的順序』論と自由貿易論、新日本出版社『経済』、二〇〇七年一月
「アダム・スミスの『ものごとの自然的順序』と『資本の用途』について」経済志林二〇一一年三月

「トリクル・ダウン理論とは何か」、新日本出版社『経済』、二〇一四年九月号
「ケインズ、新自由主義とマルクスの資本主義批判と社会認識の変革」、新日本出版社『経済』、二〇一二年五月号
「自然的自由の体系と倫理―『道徳的諸感情』改訂の意義について―」法学志林二〇一五年一二月
「ピケティとマルクス」、新日本出版社『経済』№二四三、二〇一五年一二月号
「基地と沖縄経済」、東京唯物論研究会機関誌『唯物論』第九〇号、二〇一六年一一月

書　評

R・Dウルフ&S・Aレズニック『二つの経済学―マルクス主義対新古典派』、週刊エコノミスト
大石雄爾編『労働価値論の挑戦』、新日本出版社『経済』№六一、二〇〇〇年一〇月号
井村喜代子『現代日本経済論（新版）』、三田学会雑誌九三巻四号、二〇〇一年一月
大城常夫・高良倉吉・真栄城守定『沖縄イニシアティブ』、法政大学沖縄文化研究所所報、第四九号、二〇〇一年三月
工藤晃『経済学をいかに学ぶか』、新日本出版社『経済』、二〇〇七年七月
長島誠一『現代マルクス経済学』、新日本出版社『経済』、二〇〇八年一一月
井村喜代子『世界的金融危機の構図』、三田学会雑誌一〇三巻二号、二〇一〇年七月